光探訪

2003年度光科学及び光技術調査委員会のスタートにあたって

現在「光学」の末尾に毎号掲載されています「光の広場(Optics Plaza)」を，皆様お読みいただいていることと思います．その中の「気になる論文コーナー」および「光学工房」「光探訪」「Web Watcher」の3種の企画記事は，「光科学及び光技術調査委員会」という委員会（あまりに長い名称ですので，内輪では「光委員会」とか「光科学委員会」などと省略して呼んでいます）が企画・編集していることをご存じない方が意外と多いのではないでしょうか．

「気になる論文コーナー」は，その前身は「文献抄録」として知られ，手軽に最新のOptics関係の研究動向を日本語で読めるため，筆者が学生のころなど重宝したものです．筆者もこの文献抄録を行う「文献抄録委員会」の委員をしばらく務めたことがあり，同じ光学でも異なる分野の内容について気軽に勉強や議論ができる雰囲気を大いに楽しませてもらいました．そのとき同じ委員であった方々とは，その後も何かの機会にお会いしたときに一種「同期の桜」(少し古いか？）的な親しさで交流させていただいています．

その後1998年初頭より，東京農工大の梅田先生および大阪府立大の菊田先生を関東・関西委員会の委員長として本委員会の活動がスタートし，今年で6年目を迎えました．筆者は昨年に関東委員会前委員長の千葉大・尾松先生より就任のお誘いをいただき，かつての雰囲気の委員会を念頭において比較的気軽に委員長をお引き受けしたわけですが，1年間担当してきて，文献の抄録以外に新たな任務となったコラム記事の企画・立案が意外と難しいものだということを身にしみて感じている今日このごろです．抄録がいわば研究者の書いた文章の読後感想文の意味合いであるのに対し，一般読者にとって興味のもてる内容を，通常の解説などとは少し異なった文体でゼロから書くという，小コラムニスト的な感覚で記述する企画記事では，一種の「生みの苦しみ？」があるようです．委員諸氏から次々と企画提案があるというものでもなく，とはいっても記事に穴を空けるわけにもいかず，昨年は「光探訪」などで委員会外の諸先生のお力を借りた「外注」作業でなんとかこなしてきた状況でした．また，Web Watcherなどは，近年のインターネット上の検索エンジンの高度な発達のため，ちょっとした調査には大変便利になりましたが，逆にいうと委員がわざわざ調べて記事にする価値が薄れてしまっているようにも思われます．しかしながら，これまで上記3種の企画記事は読者に大変好評であるそうで，歴代の委員長の企画とりまとめ能力の高さに敬服するとともに，自らの力不足を感じている次第です．

さて，この4月より関西委員長が大阪大の谷田先生から京都工芸繊維大の裏先生にバトンタッチされ，2003年度の新委員会がスタートしたわけですが，この機会に筆者自身中間地点で身を引き締めるとともに，新メンバーを読者の皆様に紹介させていただくことにし，この一文を記すことにしました．また，この場を借りて，読者の皆様にひとつお願いがあります．先日の委員会でも出た意見なのですが，委員の発想のみに頼った企画以外に，読者の皆様から「こんな光技術の内容を知りたい」とか「この現象の原理

表1　2003年度関東委員会メンバー．

氏　名	所　属
加藤　純一	理化学研究所
芦原　　聡	東京大学生産技術研究所
厚海　広道	(株)リコー
荒谷　道晴	キヤノン(株)
塩路　明弘	シチズン時計(株)
乾　　哲郎	NTT未来ねっと研究所
大出　　寿	オリンパス光学工業(株)
岡村　秀樹	理化学研究所
小田　　功	木更津工業高等専門学校
小原　佳巳	旭光学(株)
川崎　和彦	(株)ミツトヨ
欅田　英之	上智大学
柴床　剛玄	NECラボラトリーズ
瀧川　雄一	(株)ニコン
塚田　由紀	交通安全環境研究所
林部　和弥	ソニー(株)
尾藤　洋一	産業技術総合研究所
広瀬　知弘	千葉大学
深野　　天	理化学研究所
藤川知栄美	東京工芸大工学部
古屋　克己	産業技術総合研究所
松本　一紀	(株)東芝
村上　百合	東京工業大学
山内　泰樹	富士ゼロックス(株)
山本　　剛	(株)日立製作所
吉田　文昭	コニカ(株)

表 2　2003 年度関西委員会メンバー．

氏　名	所　属
裏　　升吾	京都工芸繊維大学
粟辻　安浩	京都工芸繊維大学
岡田　訓明	シャープ(株)
河野　裕之	三菱電機(株)
金高　健二	産業技術総合研究所
金野　賢治	ミノルタ(株)
松下　智彦	オムロン(株)
篠田　博之	立命館大学
日坂　真樹	大阪電気通信大学
似内　映之	和歌山大学
安井　武史	大阪大学
早崎　芳夫	徳島大学
山本　博昭	松下電器産業(株)

はどうなっているのか」など，通常の教科書などで知見が得られず困っている内容について，何でも結構ですので委員会に気軽に質問を投げかけていただけないでしょうか．また，「こんな学会・展示会に参加したら意外に面白いことがあった」などの情報もお寄せいただければ，委員がお話を伺いに行くことも可能です．やはり「調査委員会」と銘打っているのですから，新規の調査課題をある程度外部から得ることで，今後の活動がよりバラエティーに富んだものになると期待できます．関西・関東委員会とも，この4，5月に第1回委員会が無事終了しました．これからの1年間の文献抄録活動および企画立案をより充実したものとするために，会員皆様のご協力・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます．

なお，表1，表2に2003年度の関東・関西委員の構成メンバー表を掲げます．それぞれ，委員長と，関東は25名，関西は12名の委員により構成され，関東は年5〜6回，関西は年3回のペースで委員会活動を行っています．これまでは，慣例としてメンバーは公表されていなかったようですが，特集記事を企画しておられる編集委員会のメンバーが毎号記載されているにもかかわらず，定期記事である「気になる論文コーナー」の執筆者が一度も紹介されないのも奇妙に感じ，今年度は筆者の判断で年度初めに際して紹介させていただくこととしました．身近に委員がいる際は，上記調査課題などに関するご意見・ご提案などぜひお気軽に声をかけていただければ委員の励みともなりますので，よろしくお願い申し上げます．

なお，この一文に関しましては kato@optsun.riken.go.jp までご意見をお願い申し上げます．また，調査課題などの情報に関しては，同上および ura@dj.kit.ac.jp までお気軽にお寄せください．　　（理化学研究所　加藤純一）